

人間性豊かな歯科医師・薬剤師を目指して
平成25年度入学試験 今後の日程

Table with columns: 区分, 募集人員, 試験科目, 出願期間, 試験日, 試験会場. Rows include 歯学部 and 薬学部 with various admission categories like 一般選抜, AO, 同窓特別, 編入学.

奥羽大学報136号(通算No.261)平成24年11月30日発行
発行 奥羽大学 学報編集委員会 委員長 天野義和
〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31-1 奥羽大学 入試係 ☎024-932-8931(代)

奥羽大学報



秋のキャンパス

目次

第20回奥羽祭/薬物乱用防止啓発キャラバンカー 2
韓国慶熙大学国際交流研修修了証明書授与式/ライフサポートボランティア/
本学歯学部4年生蜂矢真也君が第22回日本歯科医学会総会で発表/
薬学部キャリアガイダンス/日本病院薬剤師会東北ブロック第2回学術大会/
福島県薬剤師研究発表会 3
薬害に関する講演会/保護者懇談会/オープンキャンパス 4
第21回奥羽大学公開講座/出張講座/中学生の大学訪問/
高校生のための薬剤師体験講座 5
国際学会/学位記授与式/第54回歯科基礎医学会学術大会・総会の開催/
第54回奥羽大学歯学会の開催/
口腔インプラント学会北海道東北支部兼学術大会 6
多田浩之准教授の講演の御案内(日本歯科医学会)/附属病院 7
図書館/同窓会だより 8
同窓生のひろば/人事 9
平成25年度入学試験 今後の日程 10

第20回奥羽祭



佐々木 千菜 (実行委員長 薬学部3年)

10月の13日(土)、14日(日)に第20回奥羽祭を無事開催することができた。今年では実行委員の人数が少なく不安な気持ちが大変大きかった。しかし、新メンバーである1年生達のやる気に満ち溢れる表情から、3年生である自分がしっかりしなければと、反対に励まされてしまった。今まで一緒に頑張ってきた同級生メンバー、2人しかいないのにしっかりついてきてくれた2年生、まだ学園祭の経験がないにもかかわらず一生懸命動いてくれた1年生。絶対に成功させてやると、不安な気持ちは消えていった。メンバー全員が一丸となり、大きな問題もなく奥羽祭を迎えることができた。風が少し強かったが、晴天に恵まれ、一人一人が緊張しながらも伸び伸びと自分の役割をこなすことができた。お客さんからも多くの笑顔を見ることができ、楽しく取り組むことができた。

奥羽祭終了後、ユニフォームにメッセージを書きあいながらみんなで達成感を分かち合った。このメンバーで活動できたことを本当に嬉しく思う。一生の思い出になるだろう。

奥羽祭を行うにあたり協力して下さった多くの関係者の方々のおかげで、記念すべき第20回奥羽祭を無事終えることができた。深く感謝を申し上げたい。



薬物乱用防止啓発キャラバンカー

10月13日(土)、本年度の奥羽祭では、「薬物乱用防止啓発キャラバンカー」の派遣を公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターへ要請し、医療系大学として薬物乱用防止啓発活動・教育を効果的に進めることを目的に多くの市民の方に公開した。

キャラバンカーには、薬物乱用が心や身体に与える危害の解説や写真のパネル、乱用されている薬物の標本、薬物乱用の危害を解説する映像、薬物乱用に関してクイズ形式で学習できるパソコンシステムなどが搭載され、違法ハーブをはじめとする薬物乱用の恐ろしさを体感的に学習することを試みた。

薬学部3年次生には、「環境毒性学」の講義の

中で学習した学校薬剤師の役割を知る絶好の機会となり、貴重な時間をそれぞれ有意義に過ごしていた。また、一般市民の方々は、東北で1台しかないキャラバンカーを見学し、感心していた。



韓国慶熙大学国際交流研修修了証明書授与式

8月5日(日)～10日(金)の6日間、韓国の慶熙大学において、奥羽-慶熙大学国際交流が開催され、その修了証明書の授与式が9月20日(土)に本学歯学部部長室にてとり行われた。

授与式では大野敬歯学部長より修了証明書の説明と今後の学生の頑張りを期待する旨が述べられた。



本学歯学部4年生蜂矢眞也君が第22回日本歯科医学会総会で発表

11月9日(金)から11日(日)まで大阪市で開催された標記の学会期間中に、デンタル・スチューデント・プレゼンテーションが催された。これは全国の歯学部学生が参加して、それぞれの研究成果を発表するもので、今回は17歯学部から28演題の発表があった。

本学からは、4年生の蜂矢眞也君が参加した。発表内容は、抗真菌薬の新たな感受性試験法の開発に関するものであった。発表後には多くの質問もあり、本人はとても緊張した時間を過ごすことになったが、歯科医学研究の一端を経験する有意義な一日となった。

薬学部キャリアガイダンス

11月20日(火)薬学部棟514講義室において、本学歯学部の唐沢明先生を講師として自己PR、エントリーシートの作り方、履歴書の書き方を中心とした5年生対象のキャリアガイダンスを実施した。

講演では自己分析シートを用いたアピールポイントの発見方法や、より人事担当者の興味を引くエントリーシートの書き方、作成にあたっての注意点など、実践的な講演が行われた。引き続き実施したSPI模擬試験では、慣れない設問に悪戦苦闘しながらも真剣に取り組む姿が見られた。

ライフサポートボランティア

毎年10月に行われる松島マラソン(東日本放送主催)は、30年以上続く大きなイベントである。

最近、マラソン中に心停止を起こすランナーが多いことから、周囲には救急救命に関するスタッフが多数必要になってきた。本学ライフサポート部はまさにそのようなボランティア活動を積極的に行う部であり、本年の松島マラソンにも14名の部員が救命ボランティアとして参加した。これは参加ボランティア団体中、最多であった。

さらに、本年の松島マラソンでは、実際にAEDで救命したランナーがいたため、本学からの救命ボランティアの多数参加は、より意義のあるものであった。



日本病院薬剤師会東北ブロック第2回学術大会

9月29日(土)、30日(日)に岩手医科大学薬学部を会場に標記の学術大会が開催された。

本学からは5年生の兼平幸宗君が「実務実習の中で今、私が感じていること」と題して発表を行った。薬学部だけでなく歯学部も有している本学からの発表は、薬剤師の先生からは大きな反響があった。多くの病院薬剤師の前で自分の意見を述べる機会は、良い体験であると共に、それ以上に兼平君の表現力が高いと感じられた発表であった。

福島県薬剤師研究発表会

10月21日(日)に標記研究発表会が第二講義棟を会場として、福島県内の保険薬局及び病院薬局薬剤師、約250名の参加を得て開催された。

今回初めて、学部学生の発表が行われ、本学からは6年高橋美加さん(題名「含糖酸化鉄注射液(フェジン®)の分光測色計を用いた安定性試験」)と5年青木梨沙さん(同「歯科との連携で体験した実務実習」)が発表した。発表者、参加者の中には卒業生も多く認められ、地元で活躍している様子うかがえた。

薬害に関する講演会

10月25日(木)、薬学部1年、3年、6年生及び教職員を対象として、財団法人いしずえの増山ゆかり氏を講師に招き、強い催奇性のため世界各地で手足に奇形を持った子供が次々に生まれるという悲劇をもたらしたサリドマイド薬害についての講演会を開催した。

講演では、「加害者もつぐらない、被害者もつぐらない」という観点から、なぜ「薬害」が起こったのか、その経緯、また「薬害」による弊害や悲痛な人生をたくましく生きている体験を語られた。

「たった一錠の薬」に多くの患者や家族の思い(命)が詰まっていることを感じることで真の専門家、薬剤師になってほしいと訴えられると同時に、増山氏より薬剤師国家試験受験を控えた6年生に立派な薬剤師を目指してほしいとエールが送られた。



保護者懇談会

歯学部

10月13日(土)、歯学部保護者懇談会、学年別懇談会が開催され、150名以上の保護者の方に参加いただいた。

懇談会では三者面談の形式で学年主任・クラス担任から成績や学習の進捗状況等が報告された。

特に第6学年に対しては卒業試験や国家試験へ向けた学習、第4学年に対してはCBT・OSCEへの対策等の説明が行われた。なお前日には、父兄による授業参観も行われた。



薬学部

10月20日(土)、4年生および6年生を対象とした保護者懇談会および個別懇談会を開催した。

学年別の懇談会では、CBT、国家試験に向けての取り組み、模擬試験の結果を交えた学習状況などが、学年主任より報告された。

学年懇談会に引き続き、4年生はアドバイザーが、6年生は特別実習担当教員が個別懇談を実施し、保護者と教員の間で学生の学習状況、生活態度などについて情報交換が行われた。

オープンキャンパス

10月21日(日)、今年度最後となるオープンキャンパスを開催した。

当日は「推薦入試に備えよう」のテーマのもと、面接試験対策と小論文試験のポイント解説を行った。その後、薬学部棟CALL室にて簡単な薬学英語の模擬学習を体験し、学内を見学した。



第21回奥羽大学公開講座

今年度で21回目を迎えた奥羽大学公開講座は、広く一般の方々に本学での研究を分かり易く、そして身近に感じてもらうために開催されている講座である。

今年度は、「自然と生命」を総合テーマとし9月29日(土)から10月20日(土)まで6つの講座を開催し、193名の参加をいただいた。今年度行った講座は下記のとおりである。

来年度も大学の研究に親しみを感じていただける講座を提供したい。

総合テーマ：自然と生命

自然と上手に共存し、人として更なる知識を得て、日常生活の向上につなげていきましょう。

開催期間	発表演題	発表演題
9月29日(土)	「身近な野生動物問題」 歯学部講師 伊原禎雄	「漢方薬の危機」 薬学部准教授 伊藤徳家
10月6日(土)	「敬語コミュニケーションについて」 歯学部講師 唐沢 明	「老化と学習・記憶」 薬学部講師 関 健二郎
10月20日(土)	「マウスガードで『ダイエット』」 歯学部教授 高田 訓	「毒は薬、薬は毒?—毒と薬の関係—」 薬学部准教授 伊藤 鍛

出張講座

歯・薬学部の教授を講師とした「歯学部・薬学部 出張講座 2012」を8月25日(土)に宇都宮、9月1日(土)に山形、そして9月15日(土)に仙台及び盛岡にて開催した。

この出張講座は、奥羽大学での研究等を福島県だけでなく、他県の方にも知ってもらう事を目的としている。当日は様々な職業に携わっていらっしゃる幅広い年齢層の方々にご参加くださり、「とても為になった」、「専門的なお話で、知識として大変勉強になった」などのご意見が寄せられた。



仙台会場で講演される清野教授

中学生の大学訪問

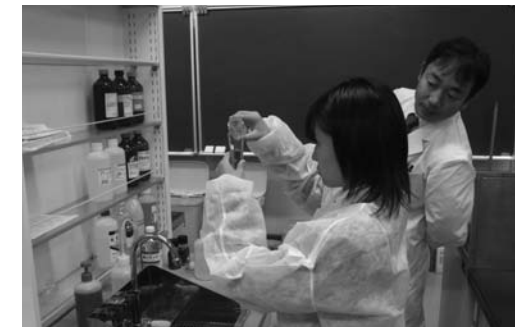
職場体験やキャリア教育の一環として郡山市立行健中学校、郡山市立三穂田中学校の生徒が相次いで本学を訪れた。生徒たちは、歯学・薬学の簡

単な体験教室を通して、歯科医師・薬剤師の楽しさ、あるいは難しさを実感できたようだった。



高校生のための薬剤師体験講座

11月17日(土)に薬剤師体験教室を開催した。白衣を着用し、薬学部の教員、6学年の学生の指導のもと粒状のチョコや、粉ジュース、シロップなどを「くすり」に見立てた調剤業務、軟膏とヘラを使った軟膏剤の混合調剤などを楽しみながら体験した。



国際学会

発表年月日	演題名	学会名	開催地	発表者
9月3日	酸性細胞外pHはルイス肺癌細胞における上皮間葉系移行を促進する	第14回国際癌転移学会	オーストラリア	加藤靖正
9月15日	セボフルレンOpen-dropによる導入の検討	アジア歯科麻酔学会	中国	田中絵里
10月29日	障害者全身麻酔下歯科治療後の体重の変化	国際障害者歯科学会	オーストラリア	吉田健司

学位記授与式

平成24年度前期における学位審査の合格者に対して、9月26日(木)に学位記授与式が挙行され、博士(歯学)の学位が授与された。

学位を授与されたのは、結城昌子氏(口腔衛生学)、山内旬美氏(小児歯科学)、伊藤秀文氏(歯科矯正学)の3名で、いずれも論文提出による。授与式では、学長より学位記が授与された後、学位は研究の通過点であるので、これからも研究に従事して歯科医学の発展に寄与して欲しい旨の式辞が述べられた。



第54回歯科基礎医学会学術大会・総会の開催

奥羽大学を主管校として、9月14日(金)から16日(日)まで第54回歯科基礎医学会学術大会・総会が本学の記念講堂及び第3講義棟を会場として開催された。本学での開催は32年ぶり、二度目となる。

歯科基礎医学会は全国29歯学部基礎系講座に所属する教員・大学院生を中心とした学会である。全国各地の歯学部から642名の参加者があり、発表演題総数は397であった。口演会場とポスター会場のどちらも多くの参加者で溢れ、予定時間を大幅に超過する熱心な質疑応答が続いた。15日の夜に本宮のアサヒビール園で行われた懇親会に

も、199名が参加して会員相互の親睦を深めた。

16日には、「はやぶさ」プロジェクトの責任者を務めたJAXAの川口淳一郎教授の公開特別講演会も行われた。講演は我が国の宇宙開発プロジェクトの紹介から始まり、優れたリーダーシップを身に付けて世界に雄飛する人材をいかにして養成するかという教育論にまで踏み込んだ提言であった。



第54回奥羽大学歯学会の開催

11月10日(土)に病院棟5階臨床講義室で歯学会が開催され、21演題の発表があった。学位講演は午前中に行われ、参加者から多くの質問が寄せられて活発な討論が展開された。

また、当日は本学非常勤講師であり東京歯科大学准教授花岡洋一先生による特別講演が行われた。テーマは「法歯学の最前線～歯科的個人識別の落とし穴と新技術」で、東日本大震災でも注目された個人識別における法歯学の重要性と新たな技術開発に関する内容であった。

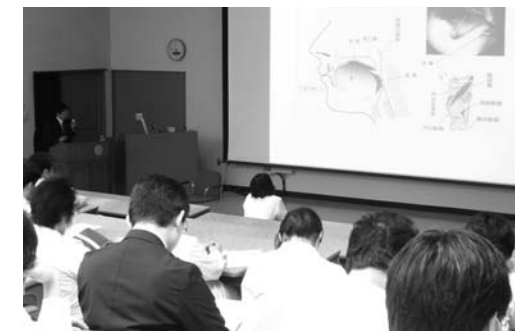
口腔インプラント学会北海道東北支部兼学術大会

11月3日(土)、4日(日)の2日間にわたり、奥羽大学第二講義棟を主会場として標記大会が開催された。

研修セミナー特別講演会

10月25日(木)、附属病院臨床講義室にて、秋田県歯科医師会常務理事の島山桂郎先生(3期卒)を講師に迎えて、「高齢者・要介護高齢者の口腔機能向上のため」という演題で研修セミナー特別講演会が開催された。

誤嚥性肺炎と口腔機能との関連、口から食べることの重要性、口腔ケアの動画を含め、認知症からの改善を認めた症例等の講演であり、研修歯科医のみならず教職員も熱心に聴講した有意義な講演会であった。



歯周病についてテレビ取材

FCT「福島ドクターズTV」という番組から「歯周病」を取上げたいという取材依頼を受け、番組のナビゲーター役である中川久美さんと撮影前に約5時間程度打ち合わせをした。

撮影は本学病院棟で行われた。9月に放送されたTV番組では歯周病が感染症であり生活習慣病でもあること、歯周病と他疾患とのかわり、歯周病の予防と治療法、とりわけブラッシング方法について一般の方にも分かり易い内容に編集されていたと思う。

今回の取材を通して、健康産業分野で働く我々歯科医師は治療技術の研鑽に加えて、患者や社会に向けて口腔さらに全身の健康文化を創出することが求められていると感じた。(高橋慶壮)



歯科補綴学講座と附属病院口腔インプラント科の共同主管で運営を担当し、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士を合わせて318名の参加を得て、有意義で活発な意見交換がなされた。



多田浩之准教授の講演の御案内(日本歯科医学会)

平成25年1月12日(土)午前10時から東京市ヶ谷の歯科医師会館で開催される第29回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」(日本歯科医学会主催)で、口腔病態解析制御学講座所属の多田浩之准教授が下記のテーマで発表します。

「ジンジパインによるアレルギー性サイトカイン誘導をターゲットとしたアレルギー疾患の制御」

日本歯科医師会会員は、参加費無料・事前申し込み不要で参加できます。

附属病院

歯学部附属病院障害者歯科表彰

10月20日(土)、山形市で開催された第65回東北地区歯科医学会において本学歯学部附属病院障害者歯科が表彰された。この表彰は、県内外の障害者に対する長年の歯科治療活動、さらにはその治療事例の調査研究内容に高い評価がされたものである。

この障害者歯科は平成11年に齋藤高弘教授を長とした障害児者歯科診療担当連絡会に遡り、翌年平成12年には保存、補綴、口腔外科、歯科麻酔の講座が加わり、講座の垣根を越えた歯科医師のチーム医療を特徴として現在に至っている。この表彰を代表して受けた佐々木重夫准教授は、今後も歯科医師のチーム医療として東北地区の障害者歯科の発展に繋げたいと抱負を述べた。

全国私立歯科大学歯学部附属病院看護部長会総会

11月8日(木)、9日(金)、全国私立歯科大学歯学部附属病院看護部長会総会が今年度は本学が当番校となり、私立歯科大学17大学、19病院が参加して開催された。

1日目は本学附属病院、2日目は郡山ビューホテルアネックスにて行われ、会議においては看護業務にかかわる諸問題に加え、震災から1年半が経過し、災害時の危機管理等についての情報交換や附属病院見学が行われた。

同窓会だより

神奈川支部では同窓生の交流の機会を数多く持つための企画として、今回は、同窓の教授をお招きして外来環取得に繋がる下記の内容の講習会を開催することができましたことをご報告いたします。

「歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る医療安全対策」と題して、奥羽大学歯学部教授の島村和宏教授(11期)、高田訓教授(12期)の二人をお招きして、10月27日(土)に神奈川県歯科医師会館に於いて開催しました。

この開催に当たっては、同窓生である大和歯科医師会会長の徳永寛司先生のご尽力により、大和歯科医師会主催で実施することができ、同窓生へ参加を呼びかけることができました。また、この講習

会を同窓生のご協力を得て開催できました事に、心から感謝します。

講演内容は、私、鹿郷(7期)が「微生物と院内感染の予防」をお話させていただきました。島村教授の演題は「BLS/AEDの概念と小児・障害者への対応」、高田教授の演題は「感染予防対策と全身疾患への対応」、教授お二人の講演は、それぞれ臨床に密接してとても分かりやすく、貴重な素晴らしい内容でした。参加された40数名の出席者の方達もお話内容に引き込まれ、真剣に聴講され、とても有意義な医療研修会になりました。

今回の企画の研修会で「外来環終了書」を出すことが出来ました。外来環の保険点数は、全体の診療報酬で僅かに増えるだけで、思うほど平均点数は上がりません。しかし、患者さんの信頼点数は上がります。同窓の先生が一人でも多く外来環施設基準を充たして、増点、増患に繋がれば幸いです。

(神奈川県支部長 鹿郷満保)



図書館

会津連隊の兵営生活 ～「蒲生明文庫」の日記を翻刻～

「滝沢峠の仮設敵を突撃。敵の逆襲頗る猛烈」中山峠から熱海に入り、高玉温泉で戦う」

「寒気猛烈。ワラ靴の行軍。一分間百米の速度。殆ど駆け足。距離を伸ばすな馬鹿野郎、上官は叫ぶ」 「三時起床。夜行軍の途に就く。日光街道を辿る。上三寄で朝食。斥候の演習」

「上官は二人の兵士を対面させて互いに打ち合いさせた。打て打ての号令で互いに4、5回打って頬が赤くなって止んだ。軍隊という処は恐ろしいところだ」(原文要約)

蒲生明さんの日記には軍隊生活の衝撃的な場面が生々しく記されている。

図書館ではこのほど、本学「蒲生明文庫」の貴重資料である旧蔵者蒲生明さんの生涯にわたる日記(原本)のうち、大正6、7年の全文の翻刻と注の作業を完了した。全国的にもあまり知られていなかった大正時代の軍隊育成の有様が明らかになった。

蒲生明さん(明29～昭45)は田村市滝根町出身。

独学で薬剤師の免許を取得、郡内で最初の薬局を開業、かたわら植物、民俗、言語などの研究に没頭、入水鍾乳洞の発見などもあり、在野の科学者として多くの論文を残した。

翻刻の内容は、蒲生さんが20歳の徴兵で、会津若松歩兵第65連隊に入営した日から退営までの2年間にわたる過酷な兵士の生活を、克明に日記として記録したもの。翻刻量はワープロA4版で約300ページ。初年兵いじめ、逃亡、食事、俸給、銃剣術、耐熱行軍、耐寒行軍、中でも17日間にわたる会津から石巻までの徒步行軍、会津から三春、棚倉、水戸、宇都宮、日光、芦ノ牧を30日間にわたる野営行軍の記録などは圧巻、日記文学の趣さえある。昭和に入る前の、近代の一側面を知る貴重な時代の証言といつてよい。

閲覧は図書館へ申し込めばそのコピー版を読むことができる。また、内容を抄出して編集したもの(10ページ)を雑誌「福島図書館研究所通信」第18号に掲載されたので、こちらも利用できる。

同窓生のひろば



内田 聡(歯学部28期生) 28期の内田聡と申します。在学中は柔道部と合気道部に所属していました。入学時に渡された部活動紹介の冊子を読んで、日によ

っては稽古の開始時間が午後7時からになるということを知りひどく面食らったのを覚えています。午後7時といえば中学生あるいは高校生の頃では既に家路についている時間でしたから。柔道部ではオールデンタルをはじめ各大会に参加し、合気道部としては奥羽祭で「演武会」を開催したりしていました。また大学に入学してから卒業するまでの間はずっと大学からほど近い場所にある下宿にお世話になっていました。下宿では朝食と夕食を用意して頂いたので、食事の栄養バランスであるとかカロリー計算であるとかをあまり気に掛ける必要がなくてとてもありがたかったです。多くの友人にも恵まれ大変に有意義な大学生活でした。

さて大学を卒業して直ぐは東北大学歯学部附属病院(現在の東北大学病院)咬合修復科に研修医として2年間勤務していました。患者様に対して治療方針を決定すると共に治療計画を立案してそれに基づいた治療を行い次回の受診の予約を入れて補綴物を製作する。歯科医師としては普通のことですが臨床経験の浅い中で戸惑いも多く、特に治療方針の決定と治療計画の立案にはかなりの時間を割かなければなりません。ただ学生時代も含めて様々な症例の補綴物製作に携わった経験は現在の臨床に多少なりとも活かすことができていると思っています。その後は「みちのく歯科診療所」(宮城県加美郡)で1年間、「南館歯科医院」(宮城県岩沼市)で1年間、それぞれ勤務し、現在は実家であり父が院長を務める「内田歯科」(宮城県黒川郡)にて父と共に仕事をしています。また奥羽大学歯学部宮城県同窓会におきましては諸先輩方から日々の診療での貴重な助言を頂く機会などありいつも大変お世話になっております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



菅家 寿和 (文学部日文科10期生) 卒業してから10年が過ぎました。皆さんお元気ですか。32歳の私は、健康診断で中性脂肪値の自己記

録をどんどん更新中です。そんな幸せ太りの毎日を過ごしています。

現在、思い出の多い郡山市に住みながら、市内の高校で教師をしています。学生時代、勉強に消極的だった私が教える立場になるとは、我ながら何とも不思議です。当時はきれいなままだった大学の教科書が、貴重な資料となって今の私を助けてくれます。

さて、大学生生活を振り返ると、本当にたくさんの忘れられない思い出が、あの講堂前のOHU像の輝く噴水のように、溢れてきます。研究に明け暮れた図書館、休講の文字を見つけ肩を落とした掲示板、講義を抜け出したくなるほど居心地の良かった学食メモリー、球技大会、中国語コンクール、奥羽祭、陽気な事務の方々、マントウとピージュウを満喫した中国での海外研修、転んで前歯を折った関西での国内研修、学部や年齢を問わず絆を強めた部活動、夏休みに東日本を縦断した友人実家巡りツアー、高井ファミリーでのバレーボール、店員のお姉さん目当てに足を運んだグッティーズ、無垢苑でレジュメを発表した卒論合宿、学ランで臨んだ卒業式、謝恩会など、本当にたくさんの方々に支えられ、人生においてかけがえのない時間や経験や繋がりを得ることができました。文学部はなくなってしまいましたが、母校への感謝と敬愛の気持ちは、これからも絶えませんが、

最後に、格式高い学報を私の駄文で汚してしまいましたことにお詫びしつつ、卒業10年の節目にこのような機会を与えてくださいましたことに感謝申し上げ、筆を置きます。ありがとうございました。皆さん、どうかお元気で。思い出笑い多き人生を。

人事

栗城 源一	歯学部 (口腔機能分子生物学)	教授	9月21日付
栗城 源一	歯学部 (口腔機能分子生物学)	教授	9月22日付
岸 飛鳥	歯学部 (生体構造学)	助手	10月1日付
佐藤 光一	歯学部 (臨床)	助手	10月1日付
真島 崇	薬学部	講師	10月1日付